

題材 「食べ残しはなぜいけない? ~食べ物はどこから来るの? ~」

対象：小学校高学年以上

題材設定の背景と本時のねらい 日本人の食生活は飽食しており、食事の食べ残しや消費されない食品が増えている。日本の食料自給率(カロリーベース)は4割程度で6割を外国からの輸入に頼っているが、その輸入食品の約7割は食べ残している計算になるという。さらに海外に依存した食糧生産がその地域の環境破壊を引き起こしているという状況さえある。一方、国民の間では「食べ過ぎによる病気」が増えているといっても過言ではなく、私たちは、この「飽食」による「食糧の危機」に関心を持ち、食べ物を大切にしようとする意識を高める必要がある。 ねらい:食べ物を広い視野からとらえることを通して、食べ物が貴重な資源であることを自覚し、大切にしていこうとする態度を育てる。(国際理解教育や道徳の時間との連携も可)		
	活動の内容	主な指導と支援
活動の開始	給食の残量調査結果を見て、給食を残すとどんな問題があるか考える。 ・いつも残す人は栄養が偏ったり、不足したりする ・残った給食はごみになり、その処理にもお金がかかる ・片付けが大変になる ・作った人ががっかりする 本時の活動のねらいを知る。 「食べ残しの問題について考え、解決方法を考えよう」	・(給食の残量の割合や全体量を把握させ、残量が多いことに気付かせる。) ・給食はその日のうちに処分しなければならない。 ・食べ物はリサイクルが難しく、食べられなかった食品はごみにしかならないことに気付かせる。 ・作っている人の気持ちを栄養士から述べてもらう。 ・食べ物を残すことは個人の問題だけでなく、他人や社会へと問題が波及することをおさえる。 ・このようにして日本では、たくさんの食べ物を捨てていることに触れ、自分たちで解決すべき課題であることに気付かせ、本時のねらいへとつなぐ。
活動の展開	「食べ物を残してしまう」理由を考える。(原因・気持ち) ・量が入らない、時間がない ・体調が悪い ・嫌いである ・考えない、何となく など 日本や世界の食糧事情について知る (資料の活用) ・献立例を見て、食べ物がどこから来ているのか考える。 ・日本の食糧事情を知る。 ・世界の食糧事情(貧困している地域)について知る。 「食べ残し」を減らす対策を考える (に振り返って考える)	・どんな場合に食べ残しているか、振り返らせる。 ・給食に限定せずに、広い視野で考えさせる。 ・あまり深く考えないで残すことから、捨てる食べ物が増えていくことに気付かせる。 ・和食の食べ物でも、ほとんどが外国から来ている現状に気付かせる。(献立例：天ぷらうどん) ・日本は、たくさんの食糧を世界中から買っていること、そして無駄にしていることを知らせる。 ・世界には食べ物が足りなくても、食べ物が買えない国(お金がない国)がたくさんあることを資料や写真などから気付かせる。(http://www.wfp.or.jp) ・自分でできること(努力)と友達に協力してもらうとできること、社会として取り組むことに分けて考えさせる。 ・食品アレルギーの生徒がいる場合は、個人の努力で簡単に解決できる問題ではないことに配慮する。
活動のまとめ	今日の活動で考えたこと、これから実行したいことをまとめる。 次時の活動を知る。	・話し合ったことをまとめ、個人の決意を明確にする。 * 食べ物がなく、困っている人々の状況(写真)などを用いて補足する。(必要によって)
備考	事前の活動 ・クラスで給食の残量調査を実施したり、学校全体の給食残量調査結果を利用したりする。 ・ の活動については社会科と連携を図り、理解の程度に応じて資料を示す。 ・ 小学校では において「読み物資料(動画)」:いただきますと言えた日~卓也ともう一つの世界~16分」を活用資料出典のサイト:「日本ユニセフ協会」「子どものための農業教室/ジュニア農林水産白書」「WFP(国連世界食糧計画)日本事務所」ホームページ/学校給食プログラム/ハンガーマップなど	